

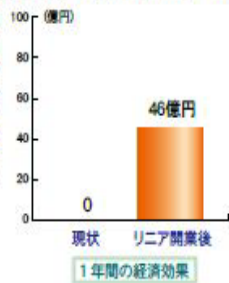
1) リニアの効果 (2027 開通)

飯田市 2012. 10 リニア将来ビジョンより



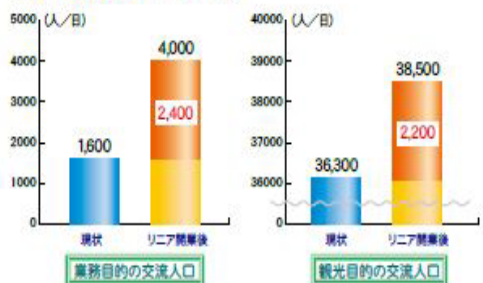
経済に関わる効果 飯伊

リニア中央新幹線が実現することによる効果をお金に換算すると、1年間で約46億円、50年間で約1300億円と見込まれます。これは都市圏へのアクセス時間短縮によって生まれる様々な効果から推計されたものです。(当地域の現状のデータから試算したものです。)



交流への影響 飯伊

リニア中央新幹線開業により、ビジネス目的では開業前より1日約2400人、観光目的では1日約2200人の増加が見込まれます。



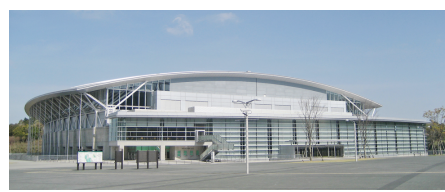
伊勢サンアリーナ
バスケ 4面
11,000人

2) アリーナ、体育館

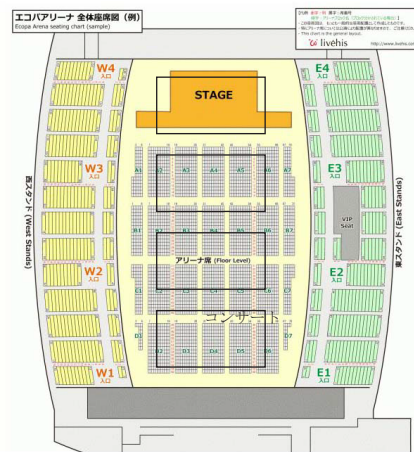
ここではアリーナ、体育館、屋内体育施設とも同じものとし、競技するところ、客席など支える部分があるもので、現在飯伊地域にはない大規模なものと位置づけたい。



刈谷ウイングアリーナ
バスケ 3面 3千席
現在では5千席ほしかったとの話



静岡県エコパアリーナ
バスケ 4面 1万人



3) なんで「アリーナ、体育館」

- H28. 2 策定 「スポーツ文化推進で元気な南信州の構築」----- 市体協スポーツビジョン 2027 までに「複合体育館」を実現できるよう要望していく。
- H27. 3 策定 「基本構想、基本計画」----- 南信州広域連合 リニア開業に向けて望まれるインフラ ④スポーツ施設 関係団体等と今後連携し検討
- H28. 3 策定 「リニア中央新幹線開通にかかる調査報告」---- 飯田信用金庫・しんきん南信地域研究所 リニア開通に向けた街づくり ②大型複合スポーツ施設設置に向けた研究
- H29. 4 策定 「飯田市スポーツ推進計画」 広域的施設は広域連合と検討していく。

4) 取組状況

- H28. 9 南信州広域連合事務局と市体協・郡体協と懇談
- H29. 2 市体協・郡体協で、南信州広域連合へ県の屋内体育館を陳情
- H29. 2 近隣アリーナ体育館視察研修

- H29. 3 南信州広域連合で両体協の陳情が採択され、広域連合で県知事へ要望
 - ・コンベンション施設とアリーナ体育館を要望
 - ・振興局と地元で協議していくこととなる
- H29. 8 南信州広域連合事務局と市体協・郡体協と懇談
 - ・要望施設の共通認識、それぞれの役割必要

5) 規模の考え方

両リーグ規則より、(その他高さ等の諸条件あり)

① 施設要件

バスケットボール Bリーグ

B1:B1ライセンス、B2:B2ライセンス 取得のために必要な条件を意味す

検査項目	基準要件	B1/B2共通		備考
		B1	B2	
1. 入場可能数	◆5,000席以上の観客席数を有する	★★★	★★★	※席数の計算は以下の方法とする
	◆3,000席以上の観客席数を有する	★★★	★★★	
	◆10,000席以上の観客席数を有する	●		

第31条 【試合会場】

バレーボール Vリーグ

公式試合を行なう試合会場は、次の要件を満たしたものでなければならない。

(イ) 屋内施設で、フロアが、25m×50m 以上あり、特設席を含め原則として3,500名以上収容できること。

最低でも5,000人以上収容(センターコート)・バスケ3面以上か(固定3,000、可動2,000とか) その他更衣室、サブアリーナ等々必要

6) 国民体育大会開催 2027

国体開催スケジュールより

- 10年前開催決定内々定 本年長野県実施で内々定済み
 - 5年前(2022)開催決定内定 開催市町村選定 施設がない場合でも建設中あるいは、すぐに建設予定である必要がありそう
 - 3年前(2024)実行委員会、会場総合視察
 - 1年前~2027までリハーサル大会
 - 2027 本大会
- 建設するにしても時間が少ない どこへ 用地 予算 大きな大会予定でもないとなかなか建設しづらい

7) 地域とのかかわり

- 長野県や地域の誇れる施設として、全国規模以上の催しが開催できる。
- 地域との交流が可能。・地域スポーツの競技力向上が見込める。
- スポーツ活動を取り入れ、健康で心豊かな生活へと結びつけができそう。
- 外からのイベントばかりでなく、両体協主催の南信州スポーツ大会を実施し 地域の結束力を図りたい。
- 経済効果も見込めそう。

8) 署名簿に取組みます 飯田市体育協会、下伊那郡体育協会の共同事業

- 署名簿をつけてアリーナ体育館を広域連合長へ要望します。
- 市体協と郡体協で実施してきたし、今後も一緒に行動をしたい。 体育館よ、グラウンドよ的なことに走らず、スポーツ団体は一つになって取組たい。
- 百年に1度の機会と言われる方もいる。今行動しなかったら、いつやるの?
- 時間があるようでない。取組が遅いくらいといわれる方もいる。
- スポーツ関係者は「本当に必要としているのか」と問われている。
- 署名簿回収をみこして、できるだけ短期間で多くの市民を含めて賛同を得たい。
- 両体協の勝手な判断で要望していることではなく、広域連合の計画や信金の報告書にも必要な柱として記載されている。
- 10年後活躍する子どもから大人までどなたでも可能です。